

茨城NPO情報

MONTHLY COMMONS

茨城のNPO活動を応援する月刊情報紙

1...巻頭コラム・NPOのひとびと・トピックス
2...NPO一日体験・情報掲示板・五軒町だより

編集/発行

特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コムズ
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町2丁目2番23号102

☎029-300-4321 FAX 029-300-4320

URL <http://www.npocommons.org>

E-mail info@npocommons.org

第12号

2003.10

1億円集まった理由

9月13、14日と北海道で全国NPOフォーラムが開催された。隔年で開催されるこの会議には全国から800名もの参加があり、様々なテーマで実践報告や協議が行われた。フォーラムのメインテーマは民主主義。オープニングの対談では、知事からNPOにシフトした北川元三重県知事と、NPOセンターの理事長から行政にシフトした札幌市長が登場。市民の政策づくりへの参画の必要性を訴えた。▶空飛ぶ帚子は、2日間とも「資金」に関する分科会に参加した。この分科会で事例発表をした名古屋のNPO「コンビニの会」には度肝を抜かれた。障害児をもつ親の負担を軽くし、誰もが安心して地域で暮らせるようにと、レスパイト事業(一時預かり)を、何の制度もない中からはじめた会だが、約1億円の資金調達をしたとのこと。▶24時間いつでもサポートします、という意味合いでの「コンビニ」だが、需要が多く、拠点がどうしても必要になり、ぴったりの物件を購入するために、銀行と市民から借入れを行った。銀行からの3000万の融資の決め手は1000人を超す支援者の名簿だったという。▶会は、設立当初から学生をはじめ、多くのボランティアの参加を呼びかけ、少しでも縁の出来た人には丁寧に会報を送り続けている。そうした人々とのつながりが、いざという時、大きな力になったとのこと。最も深刻な地域のニーズに応え、市民を巻き込み、常に周りに知らせることで、資金は集まった。(文 横田 能洋)

勤労者マルチライフ支援事業
勤労者ぼらんていあ・ねっと
<http://www.volunteer-net.jp>

余暇や退職後の時間を活用して、ボランティア活動を始めませんか。コムズは、あなたの社会貢献活動を応援しています!

「セカンドライフ」の充実を!

生の舞台、若い世代に見てほしい

狂言・和泉流二十世宗家 和泉元彌さん

11月8日に水戸で開く狂言講座「和泉元彌さんと狂言を楽しもう」(主催・茨城NPOセンター・コムズ)で、来水する狂言師・和泉元彌さん(29)は、NPO活動に理解が深い。NPO法人「世界の子どもネット」(東京)では、子どもたちへ伝統芸能の魅力を伝える「日本伝統文化親善大使」の役を担う。和泉さんに狂言の魅力やNPOとの接点を聞いた。

NPOのひとびと

「世界の子どもネット」を通じて積極的にボランティアに務めておいてですが、具体的にはどのような活動を。

「ある箏演奏家とのご縁から、『国際理解教室』の日本伝統文化親善大使として、ボランティアで各地の学校を回り、ワークショップや上演活動をしています。7月には石岡市の小学校にきました。舞台の他に、活動の広がりが生まれているのはうれしいことです」

——NPOでの活動はどのような思いから。

「狂言は、人と人のかかわりを“笑い”で描いてきました。600年前は、人と自然、人と人のかかわりは、現代よりもっと密接だったのでしょ。それらの関係が希薄になったと言われる現代で、笑いを通して、人と人をつなぎ、深めてゆくという狂言の持つ力は、NPOの方々や活動と、同じ心を持っていると、以前から感じていたんです。ですから、私自身がNPOという言葉を知る以前から、私たちの活動はすでにNPO的だったと思っていますよ。私たちに出来る事は、狂言を見ていただくこと。それしか出来ない人間かもしれません。一緒に年齢を重ねてゆく同世代の

方々、そしてもっと若い世代の方々、出来るだけ早い時期に、日本の伝統文化に出合ってほしい。狂言が伝えられてゆくのは、生の舞台に触れる事を通して、だと思っていますので、そのために生の舞台をぜひ見てほしい。私たちの益、不利益を超え、若い世代の方々が狂言に直に触れていただくのが願ひ。それが伝統文化の理解へのきっかけになるはずですから」

——狂言の魅力。

「狂言は600年間、形を変えず、人が人らしく、生き生きとユーモラスな姿を描いてきました。そして昔も今も、人々が共感する場面は同じなのです。ベトナムやフランスなど世界の多くの国々で演じることも多いのですが、国や地域によらず、ここでもやはり同じなんです。狂言は、人々の心の中に浸透してゆける“グローバルアーツ”。舞台の上の私たちは、その瞬間に勇気を与えられますし、笑い声を舞台に返してもらえることが喜びなんです」

——狂言は子どもたちに理解できるのでしょうか。

「『今の若い子は』という言葉で大人はよく使います。また、学校の公演でも『うちの児童に理解できるかどうか』とおっしゃる方がいます。私は舞台を25年続けて



います。狂言という変わらないものを演じているからこそ、肌で感じるものがあります。子どもたちは、どれも狂言に共感できるの

です。どうか大人の価値観や先入観を押し付けなくてください。子どもたちの力に気付いてください」(写真・聞き手 佐竹 明)

「和泉元彌さんと狂言を楽しもう」においでください

日時 11月8日(土)午後1時半から同4時半まで
場所 県総合福祉センターコミュニティホール

内容 ①和泉元彌さんのお話②狂言基礎講座と狂言「附子」「益山」③ワークショップ「狂言を楽しもう」

料金 小中学生千円、学生2千円、一般5千円

*当日は手話通訳と字幕サービス、保育(無料・要予約)があります。ワークショップはチケットを購入した小中学生対象で、希望者は10月20日までに往復はがきに必要事項を明記し、コムズまで郵送してください。和泉さんが直接抽選で選びます。

申し込み 茨城NPOセンター・コムズ
☎029-300-4321 FAX 029-300-4320

TOPICS

協働実現に向けたフォーラム盛会

NPOと企業と行政の協働実現を目指したフォーラムが9月26日に開催され、100人を超える参加があった。NPO支援に関する分科会では、「行政とNPOの連携協働に関するルールづくりを学ぶ場がほしい」、「企業・NPO・行政間の人材交流をすすめたい」、「NPOがもつ情報を企業が事業化する関係をつくりたい」、「NPO融資やバンクの実現に向けて準備したい」など具体的提案が出された。今後も継続して検討していく。

阿見町が町民活動センターを開設

市民活動センターを開設する市町村が増えているが、阿見町でも10月16日にマイ・アミ・ショッピングセンターの3階に、町民の社会貢献活動を支援する拠点を開く。活動情報の提供や印刷機やパソコンなどの機材の提供を行う。同センターでは、開設にあたりスタッフも募集している。問い合わせは町民活動センター準備室(☎029-888-1111)へ。10月16日(木)午後2時から、開設記念講演会が、同町かすみ公民館で開催される。

「茨城NPO情報」が1周年

昨年11月の創刊から1周年を迎えた。気軽に、茨城のNPO情報に触れてもらおうと、またNPOで生き生きと活動している人が内に秘める社会へのメッセージを紹介したい、と編集スタッフや市民モニターの熱意で発行してきた。自ら挑戦している人々の生き様が多くの人に伝わることで静かな波を起こしたい。今後も紙面の充実を目指し、スタッフ、モニター、情報なども求めます。紙面へのご意見もどんどんお寄せください。

情報掲示板 (今月から来月にかけての催しや人材募集などを掲載しています)

読者の声

これまでに、皆様から寄せられた紙面に対するご意見をまとめてみました。ありがとうございました。

○笑顔の写真が多いので、何だか楽しそうに作っているように感じます。これからの紙面の充実を期待しています(栃木・女性芸術療法家) ○主催しているワークショップの会場にいつも置かせていただいています。毎月30部程あずかりますが、いつもほとんどはけています(水戸市・教育関係) ○五軒町だよりがいいですね。ふだん忘れがちなのを、はっと気付かせてくれますね。こういうのって大事。たくさん魅力的な場所を教えてください(県南・NPO関係) ○今度、うちの団体も取材に来てほしいと思いまーす(県南、NPO理事) ○紙の色合いと読みやすい文字がいいですね(サポーターだいちちゃん) ○コモンズの事務所には、コミレスとらいのランチを食べるのが目的で、来てみたいなものです。五軒町のレストラン情報もお願いします(コモンズのボランティアスタッフ・シオン)

◆◆イベント案内◆◆

■シンポジウム「子どもたちは今…これからの性教育を考える」参加者募集

「10代の性感染症の増加、望まぬ妊娠など、今、思春期の子どもたちは深刻な問題を抱えています。私たち大人が子どもを支える大人のネットワークを広げること、それ以上に、子ども自身が自分を大切に、自分を守る力を発揮できるような関わりを家庭、福祉、地域が連携して持つことが急務です。教育、福祉、医療の現場の皆様、保護者の皆様、一緒に子どもたちの性の問題を考えてみませんか」

日時 11月2日(日)午前10時～午後4時
場所 県総合福祉会館ホール
内容 ▷基調講演 講師メグ・ヒックリングさん(「メグさんの性教育読本」著者)▷パネルディスカッション「茨城の性教育・現状とこれから」

参加料 一般千500円 学生千円(資料代含む)
託児申し込み 1人千円(10月17日まで)
問い合わせ 水戸子どもの劇場 FAX 029-255-0908

■市民のための木材の素材を活かした住宅づくりお話し参加者募集

「やみぞの森は「茨城の森林を守る」をテーマに長寿命(75年～90年)の自然素材を活かした木造住宅の提案を行っています。絶対失敗しない住まいづくりのために、参加お待ちしております」

日時 10月26日(日)午前10時～正午
場所 笠間市赤塚の井坂工務店2階会議室(☎0296-70-1200)

講師 鈴木昭平さん(やみぞの森理事長)
中村昌平さん(樹設計事務所社長・やみぞの森理事)中村真紀子さん(円卓設計代表・やみぞの森理事)
内容 やみぞの森の活動、やみぞの家について、住宅建築のためにしておきたい知識ほか。

参加費 無料
問い合わせ NPO法人やみぞの森 FAX 029-252-8124

■ワンモアライフ勤労者ボランティア賞応募受付開始

ワンモアライフ勤労者ボランティア賞は、勤労者マルチライフ支援事業の一環として、モデルとなるようなボランティア活動支援を行っている事業所及び勤労者ボランティアを積極的に受け入れている団体を顕彰する事で、勤労者のボランティア活動への関心を高めてもらうのが目的です。①ワンモアライフ勤労者ボランティア賞(対象:個人・グループ)②ナイスアシスト賞(対象:企業・事務所)③ナイ

スアシスト賞(対象:NPO/ボランティア受け入れ団体など)の各賞。

応募期間 11月1日～30日
問い合わせ 詳細は(財)勤労者リフレッシュ事業振興財団ホームページ http://www.volunter-net.jp へ。

■連続講座「水戸再発見に向けて」受講者募集

日時 10月30日(木)午後6時半～8時半
場所 水戸芸術館会議場
内容 第2回「海外都市再生事情」。建物の再利用によって街が変わった事例を紹介。講師はライターの前田幸子さん。第3回「街の潜在的価値の発見」(11月20日)、第4回「老朽化した建物の再利用とその方法」(12月11日)へ続く。

参加料 無料
定員 100人
主催 NPO法人茨城の暮らしと景観を考える会、水戸芸術館ほか。
問い合わせ 水戸芸術館現代美術センター ☎029-227-8120

■小さな講演会「NGO・NPOの役割って何?～ネパール・日本の現場で考えたこと～」参加者募集

「ネパールでの支援の最前線で活躍した方の話をじっくり聞いてみませんか? お子様連れの方もご参加いただけます」

日時 10月21日(火)午後2時半～4時半
場所 コミュニティレストランとらい
講師 岡山典靖さん(シャプラニール=市民による海外支援の会 カトマンズ前事務局長)

参加費 千円(お菓子・飲み物付)
定員 15人
問い合わせ 茨城NPOセンター・コモンズ ☎029-300-4321

■「森林ボランティア体験セミナー」参加者募集

「森は山を保ちます。山は降り注ぐ雨を受け、湖沼・河川を創ります。その水の恵みを受けて人は豊かに生活できます。森を護る活動にあなたも参加しませんか」

日時 11月23日(日)午前9時～午後3時
場所 常陸太田市西山公園
定員 15人(檜の間伐をします)

参加費 500円
※長袖長ズボン、帽子、軍手、滑りにくく底の固い靴を着用。弁当、飲み物、タオル、雨具、防寒具などを持参してください。なお、居住市町村名、氏名を記した胸証をつけてください。

問い合わせ 前項に同じ
■エディカラーで、自由に、安価に新聞・広報紙づくりしませんか

「ウェブ全盛とは言え、紙媒体は決して廃れません。日本語組版では決め細やかな対応ができるDTPソフト・エディカラーを使いこなして、ブランケット判ま

NPO 一日体験 レポート

このコーナーは、モニターのみなさんに、県内のNPOを一日体験していただいたレポートを掲載しています。読者の中で、体験を希望される方は、コメントまでご一報ください。



「NPO法人 ウィラブ北茨城」
北茨城市磯原町上相田 99 の1 ☎0293-43-1208 FAX 0293-43-1366

日々の交流こそ活動の糧

「ウィラブ北茨城」は、北茨城市在住および地域の高齢者や身障者等に対して、介護・介助に関する事業を行い、地域福祉の増進に寄与することを目的に設立したNPO法人です。北茨城市で開催された「地域リーダー養成ホームヘルパー2級課程講座」に参加した受講生が、現在の代表である高松志津夫さんを中心に、介護を利益優先の企業倫理で行われることへの疑問や、介護保険の枠のみで在宅介護は賄えないとの共通の思いから、00年3月に設立しました。

北茨城市は00年調査で高齢化率20.0%、一人暮らし老人数902という現状で、県の市部では高齢化率、一人暮らし老人数とも1位・2位を争っています。このような中「ウィラブ北茨城」は利用会員209人、正会員40人、有償サービスは330時間にのぼり、何かと不便はしても、我慢をしながら暮らしている人がいかに多いかを物



語っています。このことは「日々の営みそのものの中にこそ、何物にも替えがたい楽しい

エピソードがあり、数字には表れない部分に、活動のやりがいはある」と語る高松代表と法人の心の交流を大切に活動姿勢が、短期間に市民に認知を得るという形で現れているのだと思います。

今年4月からは子供からお年寄り、障害者までと一緒に、当たり前で暮らす福祉コミュニティの拠点として託児・託老所「あやとり」の事業が開始され、新たな一歩が踏み出されました。「あやとり」は「ウィラブ北茨城」がある木皿の地区の中で、地域住民に溶け込み、信頼を得て、地域住民の相互の助け合い活動を地道に作り上げる第一歩として、誰でも、何時でも皆が立ち寄れるコミュニティの拠点となるようにとの願いが込められています。また、北茨城市の他のNPOや市民活動を行っている皆さんとの交流が行われ、市民主体の地域社会へ向け、その想いは広がっています。

私は8月からさっそく入会し、移送サービスも僅かながら参加させて頂いていますが、今まで気づかなかった福祉の実態と、利用者さんとの会話の中で「ウィラブ北茨城」が信頼されていることを実感しました。(文と写真 NPO起業科修了生の関口敦男さん)

での新聞の組版ルール、広報紙(誌)づくりを習得し、経費を節約しませんか。エディカラーを推奨し、日刊新聞制作に携わっていた弊紙編集スタッフが、組版ルールの初歩から、印刷会社に完全データ入稿できるまでのノウハウを、懇切丁寧に、全てお譲りします。印刷費用をに抑えたい団体・個人は必修。『自分で出来る』ことが、自立の第一歩。ノートパソコンで新聞が作れます。まずは、コモンズで制作体験してください」

日時 随時
場所 コモンズの事務所
指導料 応相談
問い合わせ 前項に同じ

◆◆ボランティア募集◆◆

■「情報紙13号」発送作業お手伝い募集

「本紙13号を、県内のNPO法人、自治体などへ発送する作業です。お子さま連れの方や短時間の参加でも歓迎です。日時 11月10日(月)午後2時半～5時頃
場所 コミュニティレストランとらい
問い合わせ 前項に同じ

五軒町だより (事務日誌にかえて)

実りの秋に



建物ばかりのまち並みの中に、ひととき大きな木々が葉を繁らせる空間。そこはキリスト教会で、幼稚園が敷地内に併設されています。近頃、通りかかりに子ども達の歌声が聞こえてきて、なんとなく中をのぞくと、赤白帽子の子どもたちが運動会の練習をしている様子。そんなシーズンですね。

元気な声が建物と森に響いてとても心地良い音色。大きな樹の枝の向こうに見える高い高い秋の空が一層さわやかに気持ちよくなりました。スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋...!?今年の秋は何をやらせよう。

(絵と文 草間多佳子)

本紙常備施設・お店

ハモナカフェ(☎029-871-2157) 水戸芸術館(☎029-227-8111) 水戸カトリック教会(☎029-221-3976) ギャラリー「街かど美術館」(☎02957-2-0708) 自然食レストラン「パンプキン」(☎0293-42-1818) 常陸太田市生涯学習センター(☎0294-72-8888) カフェ「ピアニッシモ」(☎029-255-3777) 自然食品「イーハトーブの森」(☎029-254-3752) こどもとおとなの学校「恵藍舎」(☎029-246-9689) 県水戸生涯学習センター(☎029-228-1313) 交流サロニーいばらき(県三の丸庁舎☎029-302-2160) 水戸市国際交流協会(☎029-221-1800) 水戸市福祉ボランティア会館(☎029-309-4141) まちの駅みと(☎029-302-3100) 菜食カフェレストラン「Ritz'n(りっつん)」(☎029-856-0009) つくば市民活動センター(☎029-855-1171) 鹿嶋市立中央図書館(☎0299-83-2510) 龍ヶ崎市市民活動センター(☎0297-63-0030) 守谷市民活動支援センター(☎0297-46-3370) 下館市立図書館(☎0926-24-3530) 県西生涯学習センター(☎0296-24-1151) 県南生涯学習センター(☎029-826-1101) 県立図書館(水戸市三の丸☎029-221-5569) 水戸市立中央図書館(☎029-226-3951) 石岡まちかど情報センター(☎0299-27-5171)

あとがき

祝発刊1周年。勃興しつつある社会の新しいカ・NPOにこれからもご注目ください(素歩)。たくさんの方が読んで感づいて一緒に育ててくれるといいですね!(くまちゃん) 8月から編集に携わっている新参者ですが、優しい編集長に恵まれてラッキーです(公威)。新参者No.2です。スリルとサスペンスの締め切り日体感中(カ)。和泉元彌さんに共感。ほくたちは心を受け継いで生きている(ハリー)。